

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米国

24年9月の牛肉輸出量は前年同月比3.6%増

24年11月のフィードロット飼養頭数は前年並み

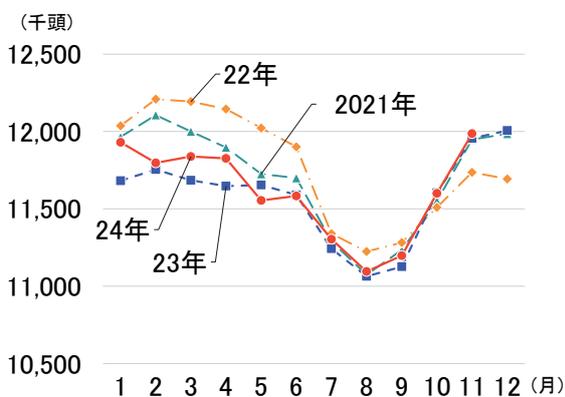
米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年10月のフィードロット導入頭数は228万6000頭（前年同月比5.3%増）、出荷頭数は184万5000頭（同4.7%増）といずれもやや増加した。この結果、同年11月1日時点のフィードロット飼養頭数は1198万6000頭（同0.3%増）と前年並みになった（図1）。現地情報によると、テキサス州など米国南部での干ばつにより導入頭数が増加したとみられている。

24年10月の肥育牛価格、前年同月比2.4%高

USDA/NASSによると、2024年10月の牛と畜頭数は285万8000頭（前年同月比1.2%増）とわずかに増加した。と畜頭数の増加と1頭当たり平均枝肉重量の増加（同4.2%増）により、同月の牛肉生産量は111万8000トン（同5.4%増）となった。

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、24年10月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^(注1)）はホリデーシーズン前の需要増から100ポンド当たり312.17米ドル（1キログラム当たり1044円：1米ドル＝151.74円^(注2)、同3.0%高）とやや上昇した。これに伴い、同月の肥育牛価格は同189.13米ドル（同633円、同2.4%高）と前年同月をわずかに上回り、高水準であった前年の水準を引き続き上回っている（図2）。

図1 フィードロット飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle on Feed」

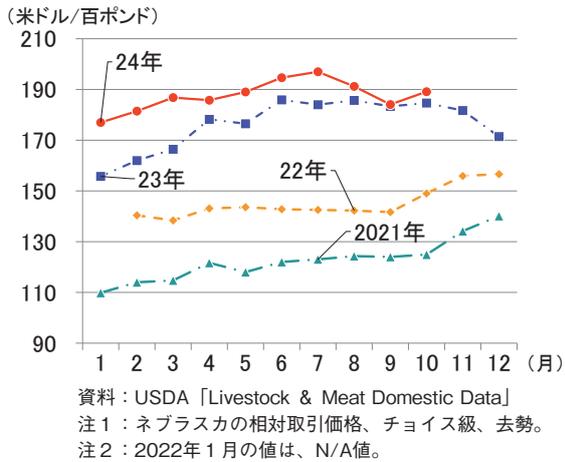
注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。

注2：各月1日時点。

(注1) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

図2 肥育牛価格の推移



24年9月の牛肉輸出量は前年同月比3.6%増、輸入量は同23.0%増

USDA/ERSによると、2024年9月の牛肉輸出量はアジア諸国やメキシコ向けの増加

から10万8670トン（前年同月比3.6%増）とやや増加した（表1）。しかし、24年1～9月の累計では102万697トン（前年同期比2.9%減）とわずかに減少し低水準であった前年の水準を引き続き下回っている。

24年9月の牛肉輸入量は、豪州や南米地域からの輸入増から17万4551トン（前年同月比23.0%増）、同年1～9月の累計では155万176トン（前年同期比21.1%増）といずれも大幅に増加した。このうち、パラグアイからの牛肉輸入については、23年12月に同国が米国の牛肉輸入要件を満たした^(注3)ことで輸入が再開し、1万4081トンとなった。

(注3) 過去1年間に口蹄疫未発生との衛生要件が満たされたとして、25年ぶりに輸入が再開した。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2023年9月	24年9月	前年同月比(増減率)	輸出割合	24年(1～9月)	
					前年同月比(増減率)	前年同月比(増減率)
日本	20,856	22,600	8.4%	20.8%	226,164	0.6%
韓国	21,206	22,454	5.9%	20.7%	207,881	▲10.3%
中国	18,981	15,949	▲16.0%	14.7%	158,365	▲10.7%
メキシコ	11,668	12,977	11.2%	11.9%	115,721	10.9%
カナダ	9,782	8,161	▲16.6%	7.5%	88,412	▲5.5%
台湾	4,895	6,651	35.9%	6.1%	66,795	▲0.7%
香港	4,236	4,412	4.1%	4.1%	28,387	▲7.2%
その他	13,243	15,466	16.8%	14.2%	128,972	6.6%
合計	104,867	108,670	3.6%	100.0%	1,020,697	▲2.9%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注：枝肉重量ベース。計数は、四捨五入のため合計において一致しない場合がある。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

国名	2023年9月	24年9月	前年同月比(増減率)	輸入割合	24年(1～9月)	
					前年同月比(増減率)	前年同月比(増減率)
豪州	31,490	50,395	60.0%	28.9%	338,739	68.4%
カナダ	40,927	40,626	▲0.7%	23.3%	339,466	2.7%
メキシコ	22,937	24,365	6.2%	14.0%	199,483	▲13.4%
ブラジル	11,380	21,330	87.4%	12.2%	246,407	44.9%
ニュージーランド	18,064	14,451	▲20.0%	8.3%	212,252	6.2%
ウルグアイ	6,511	7,242	11.2%	4.1%	97,145	64.8%
ニカラグア	4,993	6,081	21.8%	3.5%	54,304	3.7%
パラグアイ	—	4,327	—	2.5%	14,081	—
その他	5,590	5,732	2.5%	3.3%	48,298	31.6%
合計	141,891	174,551	23.0%	100.0%	1,550,176	21.1%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注：枝肉重量ベース。計数は、四捨五入のため合計において一致しない場合がある。

(調査情報部 小林 大祐)

豪州

輸出増や牛群再構築の完了に伴い、牛肉需給関連指標はいずれも高水準

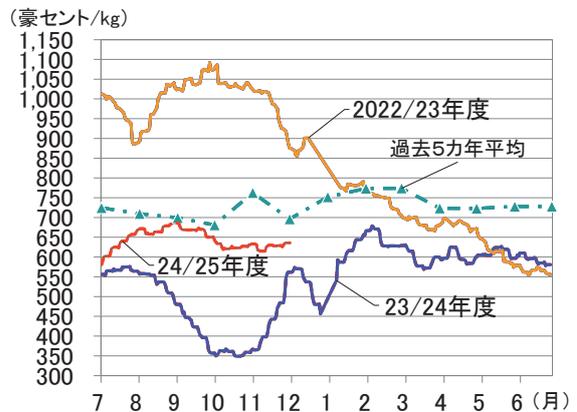
24年11月の肉牛価格、過去5カ年を下回るも横ばいで推移

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、豪州の肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近12月1日時点で1キログラム当たり636豪セント（636円:1豪ドル=100.04円^{（注1）}）と過去5カ年平均を下回るも横ばいで推移した（図1）。MLAは、牛群再構築が完了したことで牛の供給が安定したことに加え、加工処理能力の拡大や輸出需要の高まりにより、2024年の価格は年間を通じて安定的に推移したと分析している。豪州気象局（BOM）による24年12月～25年2月の降水量の見通しでは、主要肉用牛生産地域であるクイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州で平均を上回る降雨が予想され、気温も平均を上回る可能性が非常に高いとされている（図2）。このため、これらの天候要因を背景と

した牧草確保の見通しが高まったことで、EYCI価格も連動して上昇する可能性がある。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移

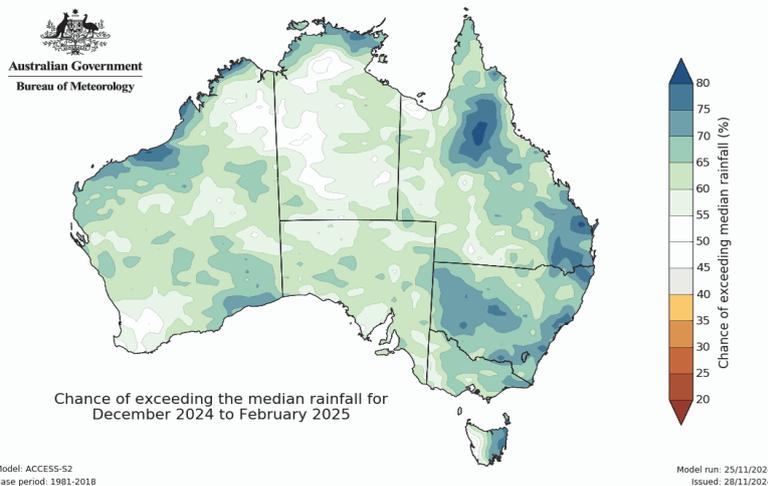


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図2 24年12月～25年2月の豪州における降雨予想図



資料：BOMウェブサイトから引用

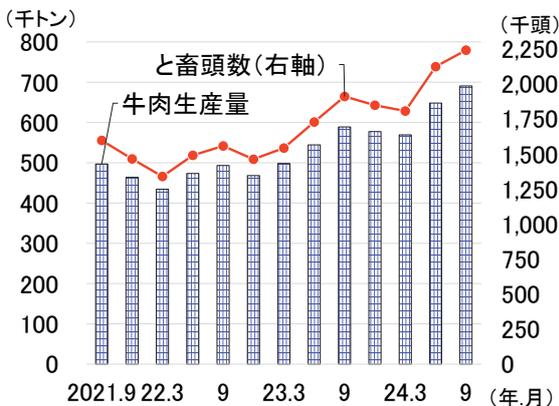
注：緑色の濃いところほど平年以上の降雨量となる可能性が高い。

24年7～9月の牛肉生産量は過去最高、成牛と畜頭数も過去最高水準

豪州統計局（ABS）が2024年11月に公表した統計によると、24年7～9月期の牛のと畜頭数は224万1200頭（前年同期比5.6%増）と、大規模な干ばつを経験した15年第2四半期以降で最大の数値を記録した（図3）。また、牛肉生産量も過去最高となる69万694トン（同6.6%増）となった。

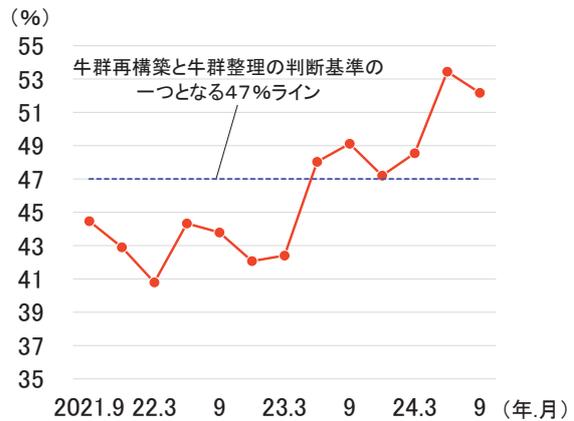
と畜頭数の増加についてMLAは、堅調な輸出需要や牛群が縮小局面であることを要因に挙げている。今後の牛飼養頭数増減の指標とされる雌牛のと畜頭数割合（FSR）を見ると、23年6月以降、牛群が減少に向かう分岐点とされる47%を超えている（図4）。FSRに対する考察としてMLAは、価格の低迷や干ばつなど気象条件による若齢牛^{とうた}の淘汰ではなく、牛群再構築を経て経産牛が適切に淘汰されている結果であると分析している。

図3 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：ABS
注1：四半期ごとの数値。
注2：生産量は枝肉重量ベース、と畜頭数は子牛を除く。

図4 雌牛と畜割合（FSR）の推移



資料：ABS
注：四半期ごとの数値。

24年10月の牛肉輸出量、米国向けが牽引し単月として過去最高

豪州農林水産省（DAFF）によると、2024年10月の牛肉輸出量は13万48トン（前年同月比23.7%増）と大幅に増加し、単月輸出量として過去最高を更新した（表）。また、24年の累計（1～10月）でも108万6932トン（前年同期比24.4%増）と過去最高で推移しており、残り2カ月で通年の記録である123万トンを超えることが確実視されている。

輸出先別に見ると、米国、韓国、東南アジア向けが好調を維持しており、特に米国向けは、同国が干ばつ後の牛群再構築に入っていた14年9月以来、過去2番目に多い4万5338トン（前年同月比64.2%増）を記録した。韓国向けは、過去4番目の輸出量となる1万9733トン（同12.7%増）となった。これは10月24日に発動したセーフガードを見越した駆け込み輸入が要因の一つとされており、今後、年内の輸出量は鈍化すると見込まれている。また、東南アジア向けは、インドネシアの需要増が牽引し、1万8909トン（同69.9%増）を記録した。

今後の輸出についてMLAは、米国産牛肉輸出の減少に加え、ブラジル産牛肉価格の上昇^(注2)から、引き続き豪州の輸出業者が恩恵を受ける可能性が高いと分析している。

(注2) 海外情報「24年の牛肉生産量は3年連続の増加で過去最大の見込み」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003413.html)をご参照ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2023年10月	24年10月	前年同月比(増減率)	24年	前年同期比(増減率)
				(1～10月)	
米国	27,613	45,338	64.2%	317,532	66.5%
韓国	17,502	19,733	12.7%	163,048	5.0%
東南アジア	11,129	18,909	69.9%	124,204	28.0%
中国	19,675	15,678	▲20.3%	153,031	▲10.8%
日本	16,563	15,021	▲9.3%	212,007	24.8%
中東	2,948	3,695	25.3%	30,752	30.5%
EU	841	1,310	55.7%	11,027	51.3%
その他	8,859	10,365	17.0%	75,333	31.0%
輸出量合計	105,131	130,048	23.7%	1,086,932	24.4%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

(調査情報部 国際調査グループ)

中国

牛肉生産量は増加、牛肉価格は低水準で推移

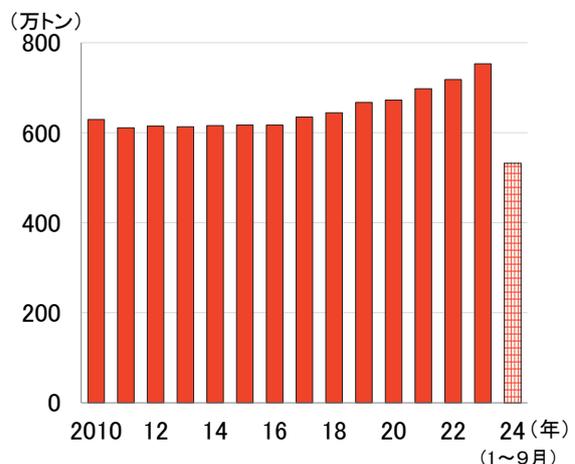
24年1～9月の牛肉生産量、前年同期比4.6%増

中国国家统计局によると、2024年1～9月の牛肉生産量は、生乳価格の下落を受けて乳用牛の淘汰が進んだことなどにより、前年同期比4.6%増の532万トンとなった(図1)。

中国農業農村部は24年4月、24年の牛肉生産量を前年比1.1%増の761万トンとする予測を公表しているが^(注1)、過去2カ年の第4四半期(10～12月)の牛肉生産量が240万トン前後で推移していることを踏まえると、同予測を上回る可能性が高い。

(注1) 海外情報「中国農業展望報告(2024-2033)を発表(牛肉編)(中国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003853.html)をご参照ください。

図1 牛肉生産量の推移

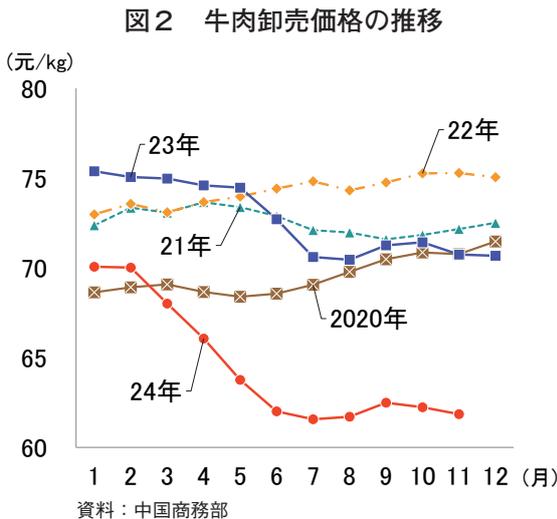


資料：中国国家统计局

24年11月の牛肉卸売価格、前年同月比12.6%安

牛肉卸売価格は2024年2月以降、大幅に下落している。中国商務部によると、24年11月の同価格は1キログラム当たり61.9元（1306円：1元＝21.10円^{（注2）}、前年同月比12.6%安）と、引き続き過去4カ年の水準を大幅に下回っている（図2）。

この要因について現地報道では、牛肉輸入量の増加に加え、生乳価格の下落を受けて乳用牛の淘汰が進んだことなどにより、牛肉が供給過多になったためとしている。



牛肉価格について中国農業農村部は、24年11月に公表した「農産物需給動向分析月報（2024年10月）」の中で、気温低下により牛肉の需要（火鍋などの消費）が増すため、年末年始とその後の祝日（春節。25年は1月下旬～2月初旬ごろ）で下げ止まり、その後は反転すると予測している。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

24年1～10月の牛肉輸入量（冷凍および冷蔵）、前年同期比3.6%増

2024年1～10月の牛肉輸入量を見ると、輸入の大部分を占める冷凍牛肉は228万1245トン（前年同期比3.3%増）とやや増加した（表1）。また、冷蔵牛肉の輸入量は5万9712トン（同17.3%増）と大幅に増加した（表2）。

25年の中国の牛肉輸入量（冷凍および冷蔵）について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、24年8月と10月に公表したレポートの中で、豊富な国内産牛肉との競合や輸入牛肉の在庫量の多さから、24年比で1%増にとどまると予測している。

表1 冷凍牛肉の輸入先別輸入量の推移

（単位：千トン）

国名	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	848.4	858.5	1,105.2	1,177.1	1,051.8	11.6%
アルゼンチン	481.1	461.7	488.2	524.9	476.0	6.8%
ウルグアイ	228.3	352.9	356.1	274.1	207.6	▲9.7%
豪州	220.0	138.6	159.3	191.7	158.9	▲3.5%
ニュージーランド	160.9	191.7	206.2	196.9	128.8	▲25.6%
米国	24.6	130.7	162.0	137.9	97.6	▲17.9%
その他	106.2	145.2	160.9	169.4	160.7	19.7%
合計	2,069.6	2,279.3	2,637.8	2,671.9	2,281.2	3.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0202。

表2 冷蔵牛肉の輸入先別輸入量の推移

(単位：千トン)

国名	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～10月)	前年同期比
						(増減率)
豪州	33.4	24.2	23.2	34.6	35.2	36.2%
米国	3.5	13.2	16.4	18.2	15.7	5.0%
ニュージーランド	8.9	10.1	9.7	9.1	5.5	▲29.8%
アルゼンチン	1.5	3.5	2.3	2.1	1.7	33.9%
ウルグアイ	1.31	2.3	0.1	0.5	0.6	59.9%
ロシア	0.0	0.2	0.4	0.8	0.6	▲5.7%
その他	0.1	0.01	0.003	0.120	0.44	1004.5%
合計	48.7	53.6	52.1	65.4	59.7	17.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0201。

(調査情報部 平山 宗幸)

豚 肉

E U

豚枝肉卸売価格、約2年ぶりに200ユーロを割り込む

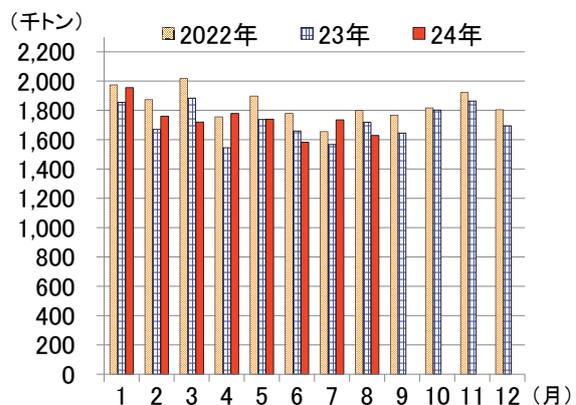
24年8月の豚肉生産量、前年同月比5.3%減

欧州委員会によると、2024年8月の豚と畜頭数（EU27カ国）は1767万640万頭（前年同月比5.2%減）とやや減少し、豚肉生産量は、162万9040トン（同5.3%減）とやや減少した（図1）。また、24年1～8月の豚肉生産量を見ると、1389万9210トン（前年同期比1.9%増）とわずかな増加を維持している。

同月の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、オランダでは、窒素排出量削減などの環境問題に対応するために政府が実施している畜産農家の廃業支援などにより、豚肉生産量が大幅に減少した（表1）。また、スペイン

では、輸出需要の低迷やアニマルウェルフェアに関する基準の厳格化などの影響から、24年6月の飼養頭数が前年同月比3.7%減となるなど、飼養頭数は減少傾向にある。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：千トン)

国名	2023年 8月	24年 8月	24年 (1～8月)	
			前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
スペイン	375	351	▲6.5%	3,225 ▲0.2%
ドイツ	360	356	▲1.2%	2,816 1.6%
フランス	177	167	▲5.7%	1,392 1.1%
ポーランド	155	150	▲2.9%	1,241 9.3%
オランダ	127	98	▲23.1%	947 ▲2.3%
デンマーク	110	100	▲8.7%	882 2.4%
イタリア	94	95	0.4%	832 3.5%
その他	320	312	▲2.7%	2,563 3.0%
合計	1,719	1,629	▲5.3%	13,899 1.9%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

24年10月の豚枝肉卸売価格、前年同月比8.5%安

欧州委員会によると、2024年10月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比8.5%安の100キログラム当たり199.40ユーロ（3万2044円：1ユーロ＝160.70円^(注1)）となり、22年11月以来約2年ぶりに200ユーロを下回った（図2）。スペインやドイツなど主要豚肉生産国で出荷頭数が増加し、これらの国の豚肉価格が下落したことが影響した。週別の価格動向を見ると、10月下旬にさらに下げ、11月に入ってほぼ

横ばいで推移しており、直近11月11日の週は同193.44ユーロ（3万1086円）と前年同週比8.7%安となった。

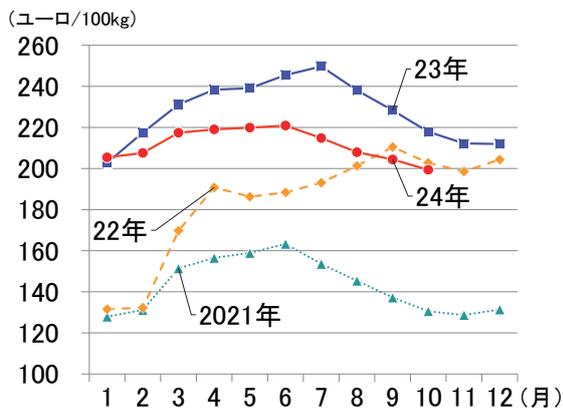
(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

24年9月の豚肉輸出量、前年同月比7.2%減

欧州委員会によると、2024年9月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、15万1907トン（前年同月比7.2%減）とかなりの程度減少した（表2）。また、24年1～9月の豚肉輸出量を見ると、149万6716トン（前年同期比4.8%減）とやや減少した。欧州委員会が24年10月8日に公表した短期的見通し^(注2)によると、韓国向けや低価格品の輸出先となるフィリピン向けが堅調である一方、最大の輸出先である中国向けの減少が見込まれるため、24年の豚肉輸出量は前年比2.5%減と予測されている。

(注2) 海外情報「欧州委員会、食肉の短期的需給見通しを公表（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003937.html）をご参照ください。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2023年 9月	24年 9月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～9月)	
					前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
中国	39,852	39,498	▲0.9%	26.0%	360,278	▲18.1%
英国	30,876	28,172	▲8.8%	18.5%	251,957	▲2.2%
日本	19,064	17,034	▲10.6%	11.2%	224,470	1.6%
韓国	13,047	10,001	▲23.3%	6.6%	151,593	9.9%
フィリピン	10,636	12,735	▲19.7%	8.4%	95,231	14.3%
米国	5,068	3,454	▲31.8%	2.3%	46,273	41.2%
その他	45,129	41,013	▲9.1%	27.0%	366,914	▲8.2%
合計	163,672	151,907	▲7.2%	100.0%	1,496,716	▲4.8%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部 藤岡 洋太）

ブラジル

24年1～10月の豚肉輸出量、中国向けの落ち込みをアジアや米州向けで補完

24年1～6月の豚肉生産量は前年同期並みで推移

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2024年1～6月の豚肉生産量は263万1000トン（前年同期比0.3%増）と前年同期並みになった（図1）。また、と畜頭数は

2858万7000頭（同0.7%増）とわずかに増加した。

近年の豚肉生産量は、国内外の堅調な需要を背景に23年まで10年連続で増加した。特に20～22年は、中国の輸入需要などを背景に平均増加率が前年比7.9%とかなりの程度伸びたが、23年は需要の落ち着きなどから529万9000トン（前年比2.2%増）とわずかな増加にとどまった。

図1 豚肉生産量および豚と畜頭数の推移



資料：IBGE

注1：枝肉重量ベース。

注2：24年は速報値。

24年の月別豚肉輸出量、直近4カ月間はフィリピン向けが最大

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2024年1～10月の豚肉輸出量は97万8338トン（前年同期比8.6%増）と前年同期をかなりの程度上回った（表）。特に7月の月間輸出量11万9211トンを筆頭に、7～10月の月間輸入量は4カ月連続で10万トンを超える高水準となった。

1～10月を輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは18万1903トン（同43.1%減）と前年同期を大幅に下回った。同国向けは、需給緩和に伴う国産価格の下落などから23年8月以降、前年同月を大幅に下回り、24年3月以降の輸出量は月間2万トンを下回る水準となった。一方、これに次ぐフィリピン向けは、同国内での家畜疾病の発生、持続的な経済成長、人口の増加などを

背景として17万7324トン（同105.9%増）と前年同期の2倍以上となった。特に7～10月の月別輸出量は、4カ月連続で中国を抜いて最大の輸出先となった。このほか、チリ、日本、シンガポール、メキシコといったアジアや米州向けの増加が進んでおり、中国向けの落ち込みを補完した。主要輸出先のうち、特にフィリピン、日本、メキシコおよび韓国向けは大きな伸びとなった。

表 輸出先別冷蔵・冷凍豚肉輸出の推移

国名	2023年（1～10月）			24年（1～10月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	319,524	776,872	2,431	181,903	384,535	2,114	▲43.1%	▲50.5%	▲13.1%
フィリピン	86,116	226,671	2,632	177,324	426,859	2,407	105.9% （約2.1倍）	88.3%	▲8.5%
チリ	68,356	157,265	2,301	91,185	208,331	2,285	33.4%	32.5%	▲0.7%
日本	31,153	105,764	3,395	74,657	250,129	3,350	139.6% （約2.4倍）	136.5% （約2.4倍）	▲1.3%
香港	86,654	208,028	2,401	72,152	168,526	2,336	▲16.7%	▲19.0%	▲2.7%
シンガポール	52,404	136,471	2,604	67,706	171,124	2,527	29.2%	25.4%	▲2.9%
ベトナム	41,312	100,289	2,428	41,815	97,818	2,339	1.2%	▲2.5%	▲3.6%
メキシコ	22,770	57,037	2,505	38,906	92,742	2,384	70.9%	62.6%	▲4.8%
ウルグアイ	38,298	90,335	2,359	37,342	89,309	2,392	▲2.5%	▲1.1%	1.4%
韓国	10,497	33,043	3,148	19,833	47,609	2,400	88.9%	44.1%	▲23.7%
その他	143,746	316,653	2,203	175,515	381,479	2,173	22.1%	20.5%	▲1.3%
合計	900,830	2,208,430	2,452	978,338	2,318,461	2,370	8.6%	5.0%	▲3.3%

資料：SECEX
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

24年10月の生体豚価格、堅調な需要から前年同月比39.1%高

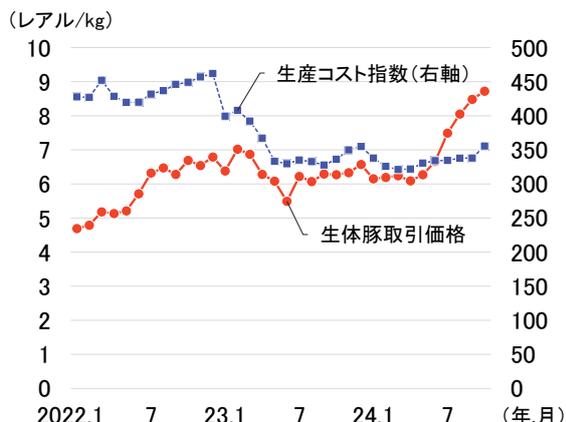
サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2024年10月のブラジルの生体豚価格（パラナ州）は、1キログラム当たり8.72リアル（219円：1リアル＝25.07円^{（注）}、前年同月比39.1%高）となった（図2）。豚肉生産が安定的に推移する中、国内外からの堅調な需要やインフレの進行が

価格上昇の要因とみられる。一方、ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）によると、同月の豚肉生産コスト指数は355.57（同5.8%高）と前年同月をやや上回る水準にとどまったため、生産者の収益性は22～23年の厳しい状況から改善しているとみられる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 生体豚取引価格および生産コスト指数

(調査情報部 井田 俊二)



資料：生体豚取引価格：CEPEA、生産コスト指数：EMBRAPA

注1：パラナ州における生体取引価格。

注2：生産コスト指数は2005年1月を100とする。

鶏肉

米 国

鶏肉生産量の増加は続くも、需要増から価格は前年を上回り推移

24年1～10月の鶏肉生産量、前年同期比1.3%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年10月の鶏肉生産量は処理羽数の増加により、198万2000トン（前年同月比4.6%増）とやや増加した（表1）。

同年1～10月の累計では、1789万7000トン（前年同期比1.3%増）とわずかに増加した。25年の鶏肉生産量についてUSDAは、肉用鶏^ふ孵化羽数の増加や飼料価格高騰の緩和などから、2170万4000トン（前年比1.4%増）と見込んでいる。

表1 鶏肉生産量の推移

区分	2023年 10月	24年 10月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～10月)	
				前年比 (増減率)	前年比 (増減率)
生産量 (千トン)	1,895	1,982	4.6%	17,897	1.3%
処理羽数 (百万羽)	825	862	4.5%	7,954	0.8%
生体重量 (キログラム/羽)	3.04	3.04	0.0%	2.96	0.5%

資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]

注1：連邦食肉検査済みのもの。

注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

24年10月の鶏肉卸売価格、前年同月比13.8%高

USDA/ERSによると、2024年10月の鶏肉

卸売価格は1ポンド当たり1.29米ドル（1キログラム当たり431円：1米ドル＝151.74円^(注)、前年同月比13.8%高）とかなり大きく上昇し、前月比では1.5%高と

なった（図1）。また、10月末の冷凍鶏肉在庫量は、堅調な需要により34万6618トン（同7.1%減）とかなりの程度減少した（図2）。25年の卸売価格についてUSDAは、年平均で同1.30米ドル（同434円、前年比0.3%高）と前年並みを予測している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

図1 鶏肉の卸売価格の推移

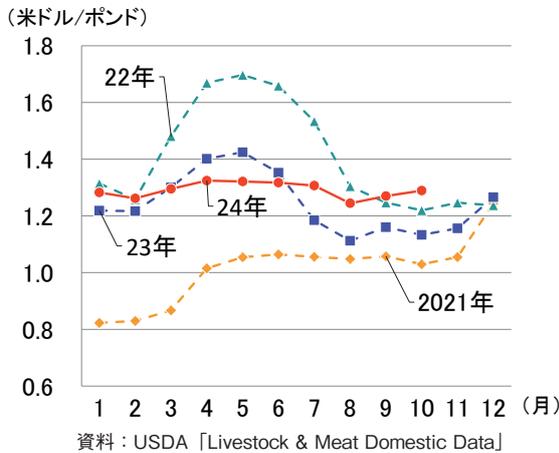
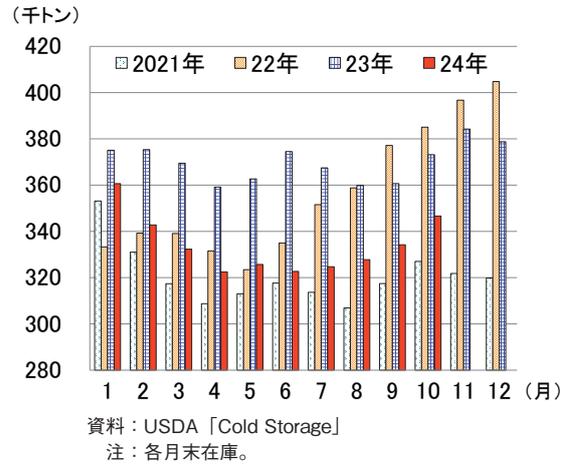


図2 鶏肉在庫量の推移



24年9月の鶏肉輸出量、前年同月比1.9%増

USDA/ERSによると、2024年9月の鶏肉輸出量はアジアやラテンアメリカ地域などの需要増から25万8487トン（前年同月比1.9%増）とわずかに増加し、9カ月ぶりに増加した（表2）。一方、同年1～9月の累計では、ドル高による価格競争力の低下などから227万5460トン（前年同期比7.6%減）とかなりの程度下回った。25年の鶏肉輸出量についてUSDAは、前年比0.9%増の307万5000トンと見込んでいる。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2023年 9月	24年 9月	前年同月比 (増減率)	シェア	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
メキシコ	56,831	60,041	5.6%	23.2%	541,791	1.3%
フィリピン	18,480	21,501	16.3%	8.3%	131,993	8.6%
キューバ	11,972	19,127	59.8%	7.4%	187,471	▲10.3%
台湾	13,444	17,125	27.4%	6.6%	148,353	▲31.4%
カナダ	11,880	16,577	39.5%	6.4%	116,058	4.9%
ベトナム	13,779	12,408	▲9.9%	4.8%	73,357	3.6%
アンゴラ	9,848	12,225	24.1%	4.7%	88,022	15.9%
グアテマラ	11,314	11,354	0.4%	4.4%	101,451	▲1.7%
ジョージア	5,665	8,819	55.7%	3.4%	50,930	▲8.3%
その他	100,495	79,308	▲21.1%	30.7%	836,034	▲13.3%
合計	253,707	258,487	1.9%	100.0%	2,275,460	▲7.6%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

（調査情報部 小林 大祐）

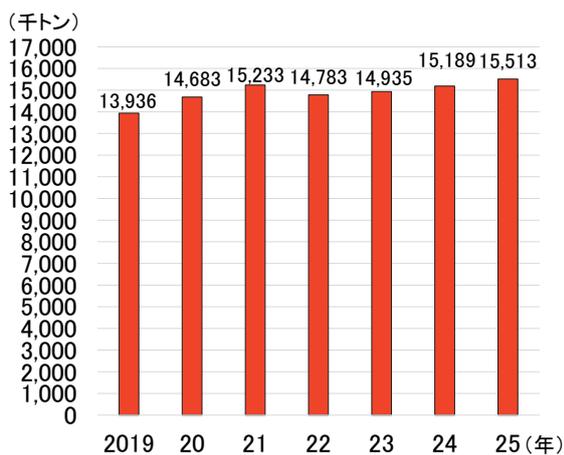
ブラジル

24年1～10月の鶏肉輸出量は前年同期をわずかに上回る

24年の鶏肉生産量、2年連続の増加で1500万トン台の見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）によると、24年のブラジルの鶏肉生産見込量は1518万9000トン（前年比1.7%増）と前年をわずかに上回り、2年連続の増加が見込まれている（図1）。これは、海外からの堅調な需要や生産コストの安定により鶏肉生産者の経営改善が図られていることによるものである。鶏肉生産量が1500万トンを超えるのは21年以來3年ぶりとなる。また、今回初めて公表された25年の鶏肉生産量の予測値は、1551万3000トン（同2.1%増）と24年に続きわずかな増加と見込まれている。

図1 鶏肉生産量



資料：CONAB

注1：2024年9月19日公表。

注2：2024年は見込み値、25年は予測値。

24年1～10月鶏肉輸出量、中国向けが大幅減も前年同期比2.4%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2024年1～10月の鶏肉輸出量は404万7183トン（前年同期比2.4%増）と前年同期をわずかに上回った（表）。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは46万1709トン（同22.0%減）となり、高水準となった前年同期を大幅に下回った。これは、中国国内での鶏肉増産の動きや同国の経済状況などを反映したことに加え、24年7月17日、南部リオグランデドスル州アンタゴルダ市の商業養鶏農家でニューカッスル病（NCD）の発生が確認されたことで、8月中旬までの約1カ月間にわたりブラジルのすべての地域から中国向け鶏肉輸出が停止したことが影響した。一方、アラブ首長国連邦（38万9644トン、同7.5%増）、サウジアラビア（31万1206トン、同2.0%増）、イラク（15万5172トン、同21.7%増）など中東向けは堅調であった。また、中国、アラブ首長国連邦に次ぐ日本向けは37万2665トン（同9.4%増）と前年同期をかなりの程度上回った。

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

国名	2023年（1～10月）			24年（1～10月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	592,277	1,408,213	2,378	461,709	1,052,554	2,280	▲22.0%	▲25.3%	▲4.1%
アラブ首長国連邦	362,390	737,440	2,035	389,644	806,962	2,071	7.5%	9.4%	1.8%
日本	340,571	777,797	2,284	372,665	723,868	1,942	9.4%	▲6.9%	▲14.9%
サウジアラビア	305,200	699,548	2,292	311,206	681,542	2,190	2.0%	▲2.6%	▲4.5%
南アフリカ	285,461	167,379	586	275,828	154,341	560	▲3.4%	▲7.8%	▲4.6%
フィリピン	190,523	174,394	915	196,933	181,902	924	3.4%	4.3%	0.9%
メキシコ	154,020	327,549	2,127	170,864	428,848	2,510	10.9%	30.9%	18.0%
イラク	127,463	252,565	1,981	155,172	343,801	2,216	21.7%	36.1%	11.8%
その他	1,594,606	2,895,457	1,816	1,713,162	3,000,827	1,752	7.4%	3.6%	▲3.5%
合計	3,952,511	7,440,341	1,882	4,047,183	7,374,643	1,822	2.4%	▲0.9%	▲3.2%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

24年11月の鶏肉卸売価格、需要増から前年を上回る水準で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、直近（2024年11月26日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格は、1キログラム当たり8.18リアル（205円：1リアル＝25.07円^注、前年同期比9.1%高）となった（図2）。24年の鶏肉卸売価格は、年初から同7.0～7.5リアル（175～188円）の範囲内で推移していたが、10月ごろから上昇傾向となり、10月末に同8.0リアル（201円）を超えた。これは、国内の牛肉価格が上昇した結果、消費需要が鶏肉など比較的安価な食肉に移行したことなどが影響したためとみられる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」2024年11月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 サンパウロ州鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の推移



資料：CEPEA
注：名目価格。

（調査情報部 井田 俊二）

牛乳・乳製品

米 国

ラテンアメリカ地域や東南アジアからの需要増が乳製品輸出を牽引

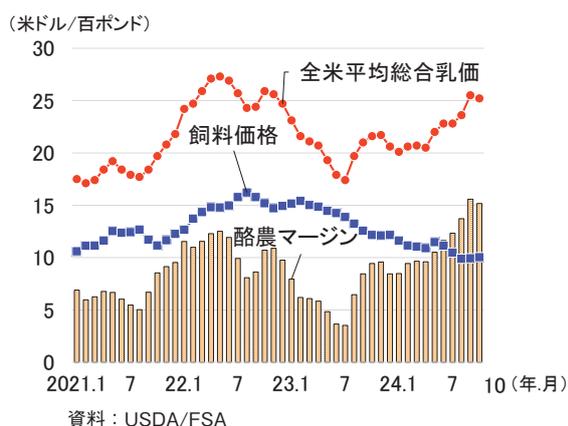
乳価は堅調に推移し、酪農マージンは大幅に上昇

米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2024年10月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり25.2米ドル（1キログラム当たり84円：1米ドル＝151.74円^{（注1）}、同16.7%高）と大幅に上昇した（図1）。また、飼料価格の下落も相まって酪農マージン^{（注2）}も同15.17米ドル（同50円、同約1.6倍）と大幅に上昇している。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2024年11月末TTS相場。

（注2）酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、発動される。

図1 酪農マージンの推移



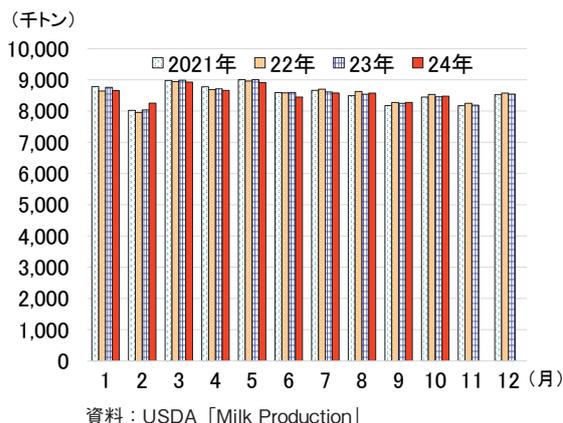
24年10月の生乳生産量は前年同月比0.2%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年10月の乳用経産

牛飼養頭数は937万頭（前年同月比0.1%増）となった。また、同月の生乳生産量は、847万8000トン（同0.2%増）と前年並みとなった（図2）。主要生産州の状況を見ると、テキサス州は飼養頭数の増加により同8.8%増とかなりの程度増加し、中西部ウィスコンシン州では同0.1%減と前年並みとなっている。一方、最大の生産量を誇るカリフォルニア州は乳牛への高原性鳥インフルエンザ（HPAI）感染の影響により同3.8%減とやや落ち込んでおり、州により生産状況は大きく異なっている。

24年の生乳生産量についてUSDAは、前月予測から9万トン引き上げ、1億251万トン（前年比0.2%減）と見込んでいる。

図2 生乳生産量の推移



24年9月の乳製品輸出量は多くの品目で前年同月を上回る

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年9月の乳製品輸出量は、

乳脂肪分ベースで前年同月比14.7%増とかなり大きく増加し、無脂乳固形分ベースで同6.8%増とかなりの程度増加した。

品目別に見ると、脱脂粉乳、チーズ、ホエイなど多くの製品で前年同月を上回っている(表)。脱脂粉乳は主要輸出先であるメキシコや東南アジア諸国(フィリピンやシンガポール、マレーシアなど)からの需要増により、同15.6%増とかなり大きく増加した。チーズはメキシコやチリ、コロンビアといったラテン

アメリカ地域からの需要増により同6.8%増とかなりの程度増加した。現地報道によると、メキシコではチーズの消費量が伸びており、特にピザに用いられる米国産シュレッドチーズの需要が増加しているとされている。

24年の乳製品輸出量についてUSDAは、乳脂肪分ベースで前年比10.5%増、無脂乳固形分ベースは供給減などから同0.8%減を見込んでいる。

表 主要乳製品輸出量の推移

(単位：千トン)

品目	2023年 9月	24年 9月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～9月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	54.2	62.7	15.6%	579.5	▲5.3%
チーズ	36.6	39.1	6.8%	386.7	19.9%
乳糖	39.8	37.5	▲5.8%	307.3	▲6.5%
ホエイ	15.7	17.2	9.3%	138.3	1.4%
WPC	10.8	10.2	▲5.5%	117.7	9.8%
バター	2.1	2.5	22.6%	22.8	▲3.0%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

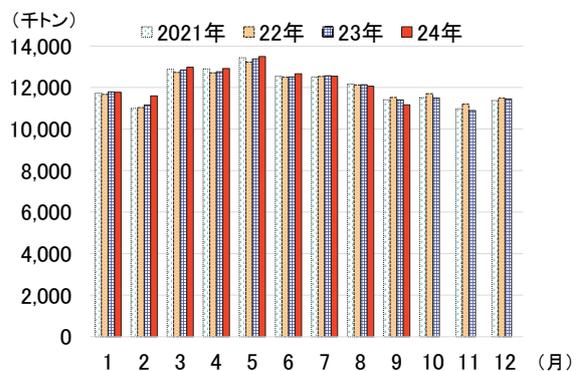
E U

24年9月の生乳出荷量3カ月連続で前年同期を下回る

24年9月の生乳出荷量、前年同月比2.1%減

欧州委員会によると、2024年9月の生乳出荷量(EU27カ国)は、1116万7000トン(前年同月比2.1%減)と3カ月連続で前年同月を下回った(図1、表)。主要生産国別に見ると、フランス(同3.2%増)が前年同月を上回った一方、ドイツ(同1.8%減)、オランダ(同2.6%減)イタリア(同22.4%減)では前年同月を下回った。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

欧州で夏季の記録的な高温によるヒートストレスに加え、欧州北西部の一部の国では

ブルータンクの感染拡大も生乳出荷量の減少につながった。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

国名	2023年 9月	24年 9月	24年 (1～9月)	
			前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,556	2,511	▲1.8%	24,582 ▲0.3%
フランス	1,748	1,803	3.2%	18,061 1.5%
ポーランド	1,038	1,038	0.0%	10,258 3.7%
オランダ	1,094	1,065	▲2.6%	10,363 ▲1.9%
イタリア	983	762	▲22.4%	9,694 2.1%
アイルランド	786	792	0.8%	7,189 ▲4.1%
スペイン	579	581	0.3%	5,647 1.7%
デンマーク	457	452	▲1.2%	4,317 ▲0.1%
ベルギー	363	359	▲1.3%	3,547 0.2%
その他	1,801	1,803	0.1%	17,529 1.7%
合計	11,405	11,167	▲2.1%	111,188 0.6%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

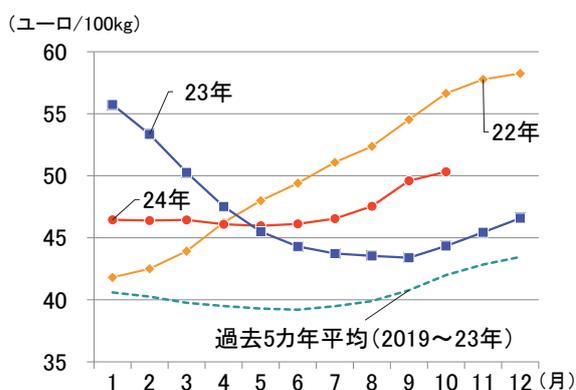
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

24年10月の生乳取引価格、前年同月比13.5%高

欧州委員会によると、2024年10月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり50.32ユーロ（1キログラム当たり80.86円：1ユーロ＝160.70円^(注)、前年同月比13.5%高）と6カ月連続で前年同月を上回り、19カ月ぶりに50ユーロを上回った（図2）。生乳出荷量の減少から生乳取引価格は堅調に推移している。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

24年11月の乳製品価格、すべての主要品目で上昇

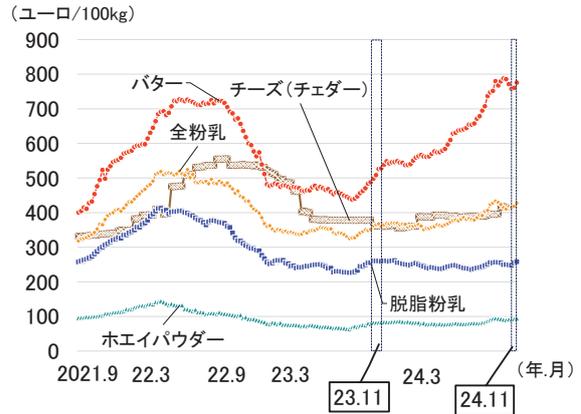
欧州委員会によると、2024年11月17日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、脱脂粉乳が100キログラム当たり258ユーロ（1キログラム当たり415円、前年同期比

0.8%安)と前年同期をわずかに下回ったものの、全粉乳が同428ユーロ(同688円、同16.4%高)、チーズが同428ユーロ(同688円、同18.4%高)、ホエイパウダーが同95ユーロ(同153円、同15.2%高)といずれも前年同期を上回った(図3)。

特にバターは、同776ユーロ(同1247円、同47.5%高)と、依然として前年同期を大幅に上回って推移している。24年1~8月の乳製品生産量を見ると、堅調なチーズ向け需要に加え、クリーム生産量が増加しており、バターの生産量は減少している。

(調査情報部 平石 康久)

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

N Z

生乳生産量は前年度を上回って推移

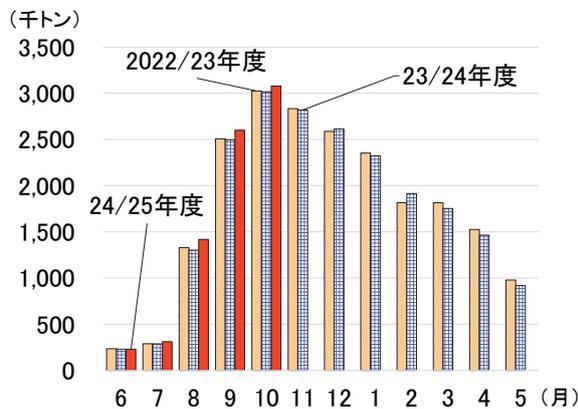
24年10月の生乳生産量、4カ月連続で前年を上回る

ニュージーランド乳業協会(DCANZ)によると、2024年10月の生乳生産量は308万トン(前年同月比2.1%増)とわずかに増加し、4カ月連続で前年同月を上回った(図1)。この要因についてニュージーランド

証券取引所(NZX)は、南島の主要生乳産地帯であるカンタベリー地方を中心に牧草の生育状況が良好であり、順調な生乳生産が続いているためとしている。

また、今後の生乳生産の見通しとしてニュージーランド国立水・大気研究所(NIWA)は、降雨量の増加要因となるラニーニャ現象に関し、年末までに発生する可能性が50%まで下がったと予測されており、今後の生乳生産の動向が注目されている。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月~翌5月。

24年10月の乳製品輸出量、チーズが増加

ニュージーランド統計局(Stats NZ)によると、2024年10月の乳製品輸出量は、脱脂粉乳およびバターがいずれも前年同月を下回った(表、図2)。特にバターは、主要輸出先である米国やサウジアラビア向けで減少した。一方、全粉乳は、中国やインドネシア向けが大幅に増加し、チーズは、主要輸出先

である日本向けに加え、インドネシアやフィリピン向けも増加した。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2023年 10月	24年 10月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	38,647	38,427	▲0.6%
全粉乳	121,486	127,981	5.3%
バターおよびバターオイル	39,561	37,934	▲4.1%
チーズ	30,911	33,089	7.0%

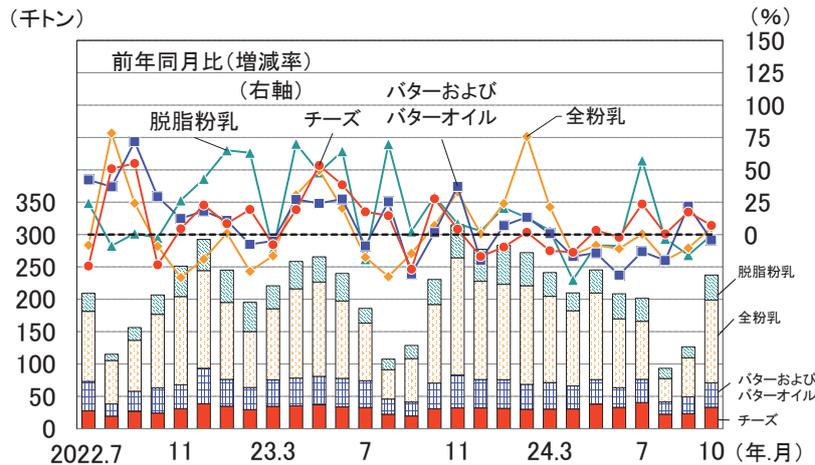
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

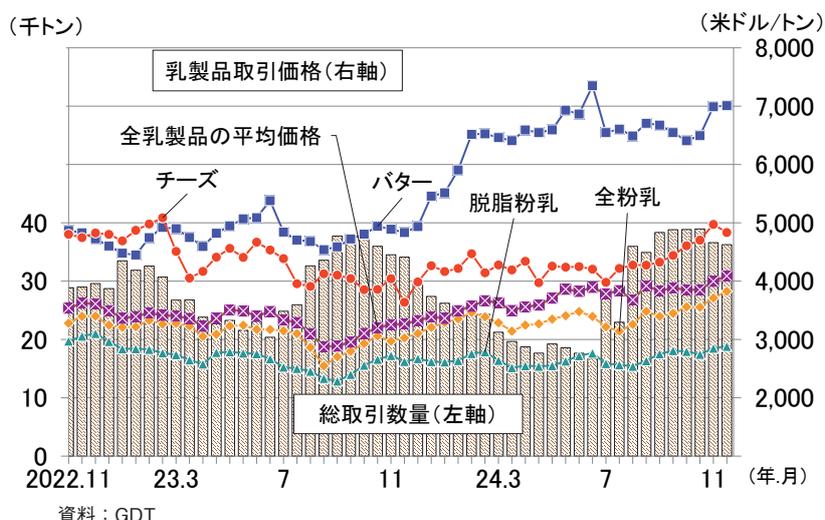
24年11月19日のGDT平均価格、主要3品目で前回開催を上回る

2024年11月19日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、チーズを除く主要3品目がいずれも前回開催時(同年11月5日)を上回った(図3)。全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4089米ドル(62万465円：1米ドル＝151.74円^(注2)、前回比2.3%高)と、22年7月以来の高値となった。中国は、全粉乳

などの在庫減少を背景に乳製品国際市場へ回歸するなど、需要が高まったことなどから、全粉乳は同3826米ドル(58万557円、前回比3.0%高)、脱脂粉乳は同2882米ドル(43万7315円、同1.1%高)となった。

(注1)グローバルデイリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注2)三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 田中 美宇)

中国

生乳生産量は減少に転じるも、生乳価格は引き続き低迷

24年1～9月の生乳生産量、前年同期比0.1%減

中国農業農村部によると、2024年1～9月の生乳生産量は、前年同期比0.1%減の2902万トンとなった(図1)。

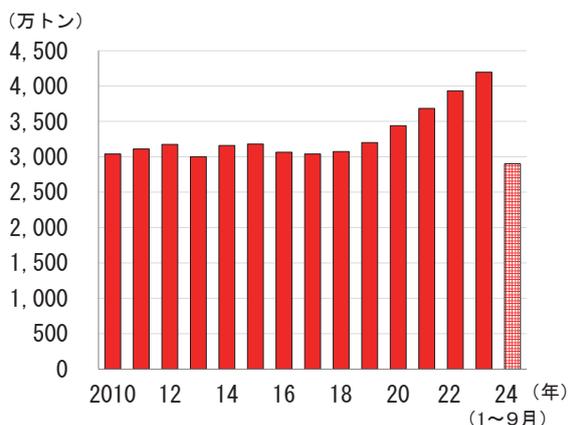
中国農業農村部は24年4月、24年の生乳等生産量(注1)を前年比2.6%増の4405万トンとする予測を公表していた(注2)。しかし、

生乳価格の下落を受けて乳牛の淘汰が進んだことで、24年第3四半期(7～9月)の生乳生産量は前年同期比5.8%減と減少に転じている。このため、24年の生乳等生産量は、同予測を下回る可能性が高まっている。

(注1) 牛由来の生乳のほか、ヤギやヤクなどの他畜種由来の乳を含む生産量。

(注2) 海外情報「中国農業展望報告(2024 - 2033)」を公表(牛乳・乳製品編)(中国)] (https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003854.html) をご参照ください。

図1 生乳生産量の推移

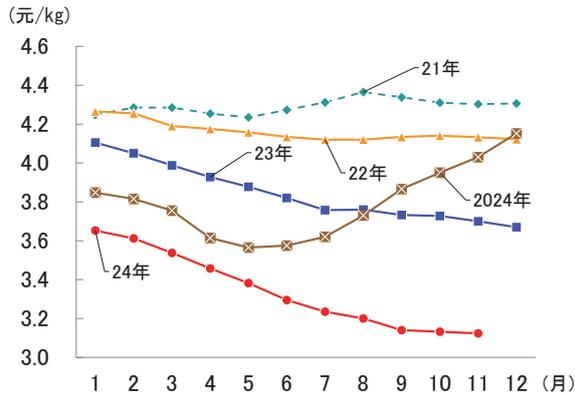


24年11月の生乳価格、前年同月比15.7%安

中国農業農村部によると、2024年11月の生乳価格は1キログラム当たり3.12元(65.83円：1元=21.10円(注3)、前年同月比15.7%安)と前年同月をかなり大きく下回った(図2)。

(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

図2 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

生乳価格について中国農業農村部は、24年11月に公表した「農産物需給動向分析月報（2024年10月）」の中で、乳牛の淘汰により生乳の過剰供給が調整されるとともに、乳製品の消費促進の取り組みなどを強化していること（注4）から、今後は生乳価格が回復すると予測している。

（注4）海外情報「中国農業農村部、肉牛乳牛生産の安定化に関する通知を公表（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003952.html）をご参照ください。

24年1～10月の乳製品輸入量、バターを除き前年同期比減

2024年1～10月の乳製品主要8品目の輸入量は、主に製パン向け需要が堅調なバターを除き、いずれも前年同期比で下回った（表）。

25年の中国の乳製品輸入量について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、24年10月に公表した「Dairy and Products Annual」の中で、（1）全粉乳、脱脂粉乳、飲用乳およびチーズは中国国内での生産量の増加と消費低迷を受けて24年比で減少（2）バターは国内消費の増加分を国内生産で賄えるため24年並みの水準（3）ホエイは豚飼料向けの需要増も人口減少による食品向けの需要減が相殺するため24年並みの水準と予測している。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

品目	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】
							前年同期比 (増減率)
全粉乳	64.4	84.9	70.1	43.1	33.9	▲12.8%	▲14.3%
脱脂粉乳	33.6	42.6	33.5	34.7	18.9	▲38.1%	▲43.6%
飲用乳	84.5	99.6	72.2	54.8	34.1	▲24.8%	▲25.8%
ヨーグルト	2.8	2.5	2.2	1.8	1.3	▲22.7%	▲11.0%
チーズ	12.9	17.6	14.5	17.8	14.1	▲3.7%	▲7.9%
バター	8.6	9.7	10.1	9.3	8.2	4.6%	9.1%
育児用調整粉乳	34.8	27.3	28.0	23.8	17.6	▲15.5%	▲8.2%
ホエイ	62.3	71.8	59.9	65.6	52.2	▲3.5%	▲10.5%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

（調査情報部 平山 宗幸）

飼料穀物

世界

消費量の微増などから期末在庫はやや減少も、引き続き高水準の見通し

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年11月8日、24/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1940万トン（前年度比0.8%減）と前月から221万トン上方修正された。このうち、最大の生産国である米国に加え、EUも前月から下方修正されたが、ウガンダやマラウイ、ベラルーシなどでの上方修正が上回った。

輸入量は、世界全体で1億8341万トン（同6.5%減）と前月から43万トン下方修正された。このうち、メキシコやベトナムは前月から上方修正されたが、中国は1600万トンと

前月から300万トン下方修正されたことが影響した。

消費量は、世界全体で12億2948万トン（同0.8%増）と前月から616万トン上方修正された。このうち、ブラジルや南アフリカなどが前月から上方修正されたことで、EUなどの下方修正分を上回った。

輸出量は、世界全体で1億8983万トン（同3.0%減）と前月から67万トン下方修正された。最大の輸出国である米国は据え置かれたが、ブラジルや南アフリカの下方修正などが影響した。

この結果、期末在庫は3億414万トン（同3.2%減）と前月から238万トン下方修正されたものの、引き続き高水準が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2024年11月8日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
			(10月予測)	(11月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.98	34.55	44.72	44.72	29.4%
	生産量	346.74	389.67	386.18	384.64	▲ 1.3%
	輸入量	0.98	0.72	0.64	0.64	▲ 11.1%
	消費量	305.93	322.00	321.71	321.71	▲ 0.1%
	輸出量	42.22	58.23	59.06	59.06	1.4%
	期末在庫	34.55	44.72	50.77	49.23	10.1%
ブラジル	期首在庫	3.97	10.04	5.84	5.84	▲ 41.8%
	生産量	137.00	122.00	127.00	127.00	4.1%
	輸入量	1.33	1.30	1.50	1.50	15.4%
	消費量	78.00	83.50	82.50	83.50	0.0%
	輸出量	54.26	44.00	49.00	48.00	9.1%
	期末在庫	10.04	5.84	2.84	2.84	▲ 51.4%
アルゼンチン	期首在庫	4.75	2.32	4.09	4.09	76.3%
	生産量	37.00	50.00	51.00	51.00	2.0%
	輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲ 50.0%
	消費量	14.20	15.25	16.30	16.30	6.9%
	輸出量	25.24	33.00	36.00	36.00	9.1%
	期末在庫	2.32	4.09	2.79	2.79	▲ 31.8%
ウクライナ	期首在庫	7.80	2.80	1.46	1.46	▲ 47.9%
	生産量	27.00	32.50	26.20	26.20	▲ 19.4%
	輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	4.90	4.25	4.05	4.05	▲ 4.7%
	輸出量	27.12	29.60	23.00	23.00	▲ 22.3%
	期末在庫	2.80	1.46	0.63	0.63	▲ 56.8%
EU	期首在庫	11.51	8.03	7.48	7.48	▲ 6.8%
	生産量	52.33	61.45	59.00	58.80	▲ 4.3%
	輸入量	23.19	19.50	19.00	19.00	▲ 2.6%
	消費量	74.80	77.10	75.30	75.10	▲ 2.6%
	輸出量	4.20	4.40	3.30	3.30	▲ 25.0%
	期末在庫	8.03	7.48	6.88	6.88	▲ 8.0%
中国	期首在庫	209.14	206.04	211.36	211.29	2.5%
	生産量	277.20	288.84	292.00	292.00	1.1%
	輸入量	18.71	23.41	19.00	16.00	▲ 31.7%
	消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
	輸出量	0.01	0.00	0.02	0.02	—
	期末在庫	206.04	211.29	209.34	206.27	▲ 2.4%
世界計	期首在庫	314.02	304.59	312.65	314.22	3.2%
	生産量	1162.99	1229.11	1217.19	1219.40	▲ 0.8%
	輸入量	173.39	196.20	183.84	183.41	▲ 6.5%
	消費量	1172.43	1219.48	1223.32	1229.48	0.8%
	輸出量	180.34	195.65	190.50	189.83	▲ 3.0%
	期末在庫	304.59	314.22	306.52	304.14	▲ 3.2%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

注2：「—」は実績のないもの。

(調査情報部 岡田 真希奈)

生産量は減少も、大豆期末在庫は引き続き大幅増の見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年11月8日、24/25年度の世界の大豆需給予測値を更新

した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2540万トン（前年度比7.8%増）と前月から352万トン下方修正された。この

表 主要国の大豆需給見通し（2024年11月8日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		
			(10月予測)	(11月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	7.47	7.19	9.31	9.31	29.5%
生産量	116.22	113.27	124.70	121.42	7.2%
輸入量	0.67	0.57	0.41	0.41	▲ 28.1%
消費量	60.20	62.24	66.00	65.59	5.4%
輸出量	53.87	46.13	50.35	49.67	7.7%
期末在庫	7.19	9.31	14.97	12.80	37.5%
ブラジル					
期首在庫	27.38	36.82	27.96	27.96	▲ 24.1%
生産量	162.00	153.00	169.00	169.00	10.5%
輸入量	0.15	0.87	0.15	0.15	▲ 82.8%
消費量	53.41	54.70	54.00	54.00	▲ 1.3%
輸出量	95.50	104.17	105.00	105.50	1.3%
期末在庫	36.82	27.96	34.01	33.51	19.8%
アルゼンチン					
期首在庫	23.69	17.00	24.45	24.08	41.6%
生産量	25.00	48.21	51.00	51.00	5.8%
輸入量	9.06	7.79	6.00	6.00	▲ 23.0%
消費量	30.32	36.55	40.00	40.00	9.4%
輸出量	4.19	5.11	4.50	4.50	▲ 11.9%
期末在庫	17.00	24.08	29.35	28.98	20.3%
中国					
期首在庫	25.15	32.34	43.31	43.31	33.9%
生産量	20.28	20.84	20.70	20.70	▲ 0.7%
輸入量	104.50	112.00	109.00	109.00	▲ 2.7%
消費量	96.00	99.00	103.00	103.00	4.0%
輸出量	0.09	0.07	0.10	0.10	42.9%
期末在庫	32.34	43.31	46.01	46.01	6.2%
世界計					
期首在庫	92.64	101.01	112.37	112.42	11.3%
生産量	378.60	394.73	428.92	425.40	7.8%
輸入量	167.89	177.90	177.61	177.91	0.0%
消費量	315.29	331.13	346.38	346.15	4.5%
輸出量	171.75	177.04	181.53	181.71	2.6%
期末在庫	101.01	112.42	134.65	131.74	17.2%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

うち、最大の生産国であるブラジルは1億6900万トン（同10.5%増）と前月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は1億2142万トン（同7.2%増）と前月から328万トン下方修正された。これは、単収の引き下げ（前月から1.4ブッシェル下方修正の1エーカー当たり51.7ブッシェル）によるものであり、特にアイオワ州、イリノイ州、ミネソタ州での減産が影響したとされる。また、アルゼンチンは5100万トン（同5.8%増）、中国は2070万トン（同0.7%減）といずれも据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7791万トン（前年度並み）と前月から30万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万トン（前年度比2.7%減）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億4615万トン（同4.5%増）と前月から23万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億300万トン（同4.0%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8171万トン（同2.6%増）と前月から18万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億550万トン（同1.3%増）と前月から

50万トン上方修正されたが、これに次ぐ米国は4967万トン（同7.7%増）と前月から68万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は1億3174万トン（同17.2%増）と前月から291万トン下方修正された。これは、米国の生産量の下方修正などが反映されている。

今回の予測では、米国の生産量は減少したものの、期末在庫は市場関係者による予想値の範囲内にとどまったとされたこともあり、USDAは米国の生産者販売価格を前年度比12.9%安の1ブッシェル当たり10.80米ドル（1639円、1キログラム当たり65円^{（注1）}：1米ドル＝151.74円^{（注2）}）に据え置いている。

また、今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国の大豆輸入量9460万トンとは引き続き乖離^{（かいり）}があり、期末在庫が高い水準にある中で、今後の動向が注目される。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

単収の下方修正で生産量はわずかに減少も、輸出量は据え置かれて引き続き高水準を維持

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2024年11月18日、24/25年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

作付面積および収穫面積は前月から据え置かれたものの、生産量は単収の下方修正に

より151億4300万ブッシェル（3億8465万トン^{（注1）}、前年度比1.3%減）と前月から下方修正され、前年度をわずかに下回ると見込まれている。

米国内消費量は、126億6500万ブッシェル（3億2170万トン、同0.1%減）と前月

から据え置かれ、前年度並みと見込まれている。

輸出量は、23億2500万ブッシェル（5906万トン、同1.4%増）と消費量同様に前月から据え置かれ、前年度をわずかに上回る高水準とされている。

この結果、期末在庫は19億3800万ブッシェル（4923万トン、同10.1%増）と、生産量が下方修正された影響で前月から下方修正されたものの、前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、12.9%（同1.1ポイント増）と

前月から0.4ポイント下方修正されたが、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.10米ドル（634円、1キログラム当たり24.5円：1米ドル＝151.74円^{（注2）}、同9.9%安）と前月から据え置かれ、前年からのかなりの程度下落することが見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2024年11月8日米国農務省公表）

区分	－単位－	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
				(10月予測)	(11月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	90.7	90.7	36.71 (百万ヘクタール)	▲4.1%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	82.7	82.7	33.47 (百万ヘクタール)	▲4.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	183.8	183.1	11.49 (トン/ヘクタール)	3.3%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	1,760	1,760	44.71 (百万トン)	29.4%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,341	15,203	15,143	384.65 (百万トン)	▲1.3%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	28	25	25	0.64 (百万トン)	▲10.7%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,729	16,989	16,928	429.99 (百万トン)	1.2%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,044	12,676	12,665	12,665	321.70 (百万トン)	▲0.1%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,486	5,807	5,825	5,825	147.96 (百万トン)	0.3%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,869	6,840	6,840	173.74 (百万トン)	▲0.4%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,478	5,450	5,450	138.44 (百万トン)	▲0.5%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,662	2,292	2,325	2,325	59.06 (百万トン)	1.4%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,969	14,990	14,990	380.76 (百万トン)	0.1%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,760	1,999	1,938	49.23 (百万トン)	10.1%
期末在庫率	(%)	9.9	11.8	13.3	12.9		1.1ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.55	4.10	4.10	24.5 (円/kg)	▲9.9%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表1と一致しない場合がある。

（調査情報部 岡田 真希奈）

トウモロコシおよび大豆の価格動向

24年10月の国産トウモロコシ価格、供給増からかなりの程度下落

中国農業農村部は2024年11月20日、「農産物需給動向分析月報（2024年10月）」を公表した。この中で、24年10月の国産トウモロコシ価格は前月からかなりの程度下落した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、トウモロコシの販売が最盛期に入り、旧穀の処分とも相まって、市場への供給量は十分な状況とされている。需要面では、飼料需要が回復傾向にある中で、飼料製造企業の購入量も増加しているが、潤沢な市場在庫を背景にコーンスターチ製造企業を含めていずれも過度な在庫を抱えず、必要量のみを都度購入している状況とされている。今後、気温の低下から産地保管も容易となり、また、トウモロコシの備蓄も実施されることで下落が止まることで、当面の国産トウモロコシ価格は安定した推移と見込まれている。

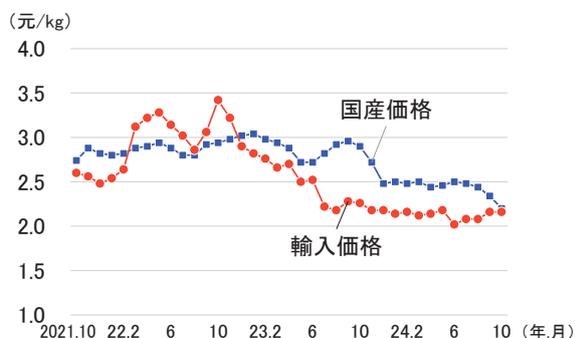
輸入トウモロコシ価格を見ると、主要養豚

生産地の中国南部向け飼料原料集積地となる
かんどん こうほ
 広東省黄埔港到着（関税割当数量内：1%の関税+25%の追加関税）は、24年10月が1キログラム当たり2.16元（46円：1元＝21.10円^{（注）}、前月同）となった。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.20元（46円、前月比6.0%安）とかなりの程度下落したことで、輸入と国産の価格差は前月の同0.18元（4円）から同0.04元（1円）に縮小した。

24年10月の国産大豆価格、供給増からかなり大きく下落

2024年10月の国産大豆価格は、前月からかなり大きく下落した（図2）。同月の大豆需給を見ると、供給面では、主産地からの供給量が増加する中で、市場在庫は潤沢な状況とされている。需要面では、中国最大の穀物・食品企業である中糧集团有限公司（COFCO）が相次いで倉庫を開放して大豆を買い入れ、また、大手穀物企業も同様に

図1 トウモロコシ価格の推移

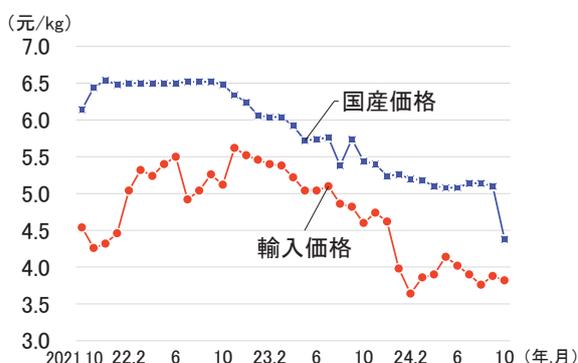


資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

大豆を買い入れていることで、需要を下支えている状況とされる。このため、価格の下落に歯止めがかかり、当面の国産大豆価格は安定に向かうと見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省こくりゅうこうの食用向け国産大豆平均取引価格は、24年10月が1キログラム当たり3.86元（81円、前年同月比21.7%安）と前年同月を大幅に下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省さんとうの国産大豆価格は、同4.38元（92円、同19.6%安）と前年同月を大幅に下回った。同月の輸入大豆価格（山東省青島港ちんたお引き渡し価格、課税後）が同3.82元（81円）となったことで、輸入と国産の価格差は前月の同1.23元（26円）から

同0.56元（12円）に縮小した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて高い水準にある。24年（1～9月）の輸入量は8185万トン（前年同期比8.1%増）とかなりの程度増加したが、輸入額は穀物価格の下落を受けて同9.6%減の416億7700万米ドル（6兆3241億円：1米ドル＝151.74円^(注)）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の76.0%）、米国（同17.8%）、アルゼンチン（同2.7%）である。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年11月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）